

教育長定例記者会見 会見録

日時：平成30年12月14日 16時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・高校生地域創造サミット（発表）
- ・GAPに取り組む県立農業高校生の福島県訪問（発表）

質疑事項

- ・発表項目について
- ・障がい者雇用について
- ・今年を振り返って

発表項目

（教育長）私から2点、発表させていただきます。

まず1点目は、GAPに取り組む県立農業高校生の福島県への訪問についてでございます。12月26日から27日にかけて、「2018 高校生地域創造サミット」を鳥羽市内において開催します。このサミットは、伊勢志摩サミットの成果を次世代につなぐ取組の一つで、昨年度は南伊勢町で開催し、今回が2回目となります。今年度は、県内外から78人の高校生が集い、「地域の資源や特色を活かし、自分の感じる『豊かさ』を実現する生き方で地域の活性化をめざす」というテーマのもと、学校の枠を越えた生徒の交流が深まるよう1泊2日の合宿形式で行います。主な日程でございますが、1日目は、最初に県内の3校と県外の3校から、それぞれの学校における地元市町と連携した地域活性化の取組についての実践発表を行います。その後、フィールドワークとして、鳥羽市の第1次産業や観光業などにおいて、地域の活性化に取り組む方々を訪問して、インタビューや体験活動を行い、翌日の討議に向けて地域の現状を「知る」活動を行います。ナイトセッションでは、フィールドワークの報告やテーマへの理解を深めるための生徒による話し合いを行います。2日目は、鳥羽市の課題をふまえた活性化策について、班別討議を行い、話し合った内容をまとめてポスターセッションの形式で発表・交流を行います。最後に、参加生徒全員が考察した「鳥羽市の活性化策」を提言としてとりまとめ、鳥羽市に提案する予定でございます。運営にあたっては、開催地である鳥羽市や県内企業の支援・協力を得て「おもてなし」の精神を大切に実施します。開催地である鳥羽高校では、「おもてなし企画」として、宿泊施設である彩花亭の協力のもと、参加者の夕食に出す地元食材を活用したメニューの開発に取り組んでいます。また、ホテル内での高校生作品展なども計画しています。参加した高校生が、鳥羽市の課題解決や活性化に思いを持って取り組む人々と出会い、インタビューや体験活動を行うことを通じて、その若い感性で何を感じ、どのような議論や提案をしてくれるかが楽しみです。今回のサミットを契機に、参加した高校生が、それぞれの地域に戻っても、地域の魅力や課題に対して自分たちに何ができるのかを主体的に考え行動し、活動を広げることにつながっていくことを期待しています。

もうひとつは、GAPに取り組む県立農業高校生の福島県訪問についてです。GAPに取り組む高校生間の意見交換等を行うため、12月25日から12月27日まで、県立農業高校5校の生徒5人が福島県を訪問し交流します。福島県では平成29年5月、三重県では29年7月にGAP取得推進を宣言し、両県の農業高校はGAPの取組を進めてきました。お互いが学び交流することがGAPの取組のレベルアップにつながると考え、今年8月には福島県の高校生が本県を訪れていただき、今回は本県の農業高校生が福島県を訪問し交流することとなりました。福島県を訪問するのは、今年8月に福島県の高校生と交流した生徒など県立四日市農芸高校、久居農林高校、相可高校、明野高校、伊賀白鳳高校から各1人の生徒5人と引率2人の計7人です。12月25日に福島県に入り、翌26日には、福島県の高校生とともに、グローバルGAPを取得した農産加工を行う農園と、地元の雇用創出が期待されている最先端の野菜栽培を手がける会社を訪問します。また、福島県立福島明成高校を訪問し、8月に交流した福島県立高校2校の高校生と交流を行います。27日には福島県庁を訪問し、交流の様子を福島県知事に報告することになっています。なお、生徒の事前学習会を12月19日14時00分から15時30分まで、三重県合同ビルG101会議室で行い、福島県の農産物、復興の取組概要や訪問先について学習するとともに、各校におけるGAPの取組について情報交換を行いますので、取材をお願いします。今回、両県の高校生がGAPの学習を通じた交流を行うことにより、互いに刺激しあい、より高い意欲の醸成を図るとともに、今後の取組につなげることが期待できるものと考えています。私からの発表は、以上です。

発表項目に関する質疑

(質) ポスターセッションは、日本語で何と言いますか。

(答 教育政策課) 日本語で適当な言葉があるかどうか分かりませんが、要するに、班の中で一人の代表者がポスターの前で、話し合ったことを見せながら発表して、他の子たちは、他の班の物を見に行くものです。

(質) ポスターって何ですか。手書きのポスターですか。

(答 教育政策課) そうです。話し合った内容を手書きでまとめます。

(質) それをポスターというんですか。

(答 教育政策課) そうです。それを前に貼って発表します。班の他の子たちは、他の班のポスターを見に行き、他の班の子たちは自分たちのポスターを見に来るとい、そういう形式のものです。

(答) 自分たちの活動のとりまとめをポスターの形の中にとりまとめて、お互いに見ながら、高めあうというか、お互いに勉強しあうようなものです。

(質) 高校生地域創造サミットは、何年から始めて、今回で何回目か。

(答) 昨年度から始めて、今回で2回目です。

(質) 去年の参加人数は。

(答) 92人です。南伊勢町で行いました。

その他の項目に関する質疑

○障がい者雇用について

(質) 定例会の報告事項の障がい者雇用。説明資料ですと、実習助手には障がい者特別選考への応募がなかったということですが、これは何でなかったんですかね。

(答 教職員課) 実習助手については25名の応募がありましたが、障がい者を対象とした特別選考の応募はありませんでした。実習助手の要件として、今回、機械、建築、農業の、それぞれの区分で募集しているんですけども、一つは、該当の高校の免許を持つこと、もしくは、該当の大学学部等を卒業、または卒業見込みであることとなっていて、そういう条件の中で、手帳をお持ちの方の応募がなかったということでございます。

(質) 事務職員は二次選考を1月に実施する予定ということですが、2名の募集に対して6名の応募ということですが、最終的には何人くらい採用する予定ですか。

(答) 人事委員会の試験で実施される予定です。2名の募集に6名の応募があつてということですので、2名合格にさせていただけるんだろうという、すいません、そういう言い方しかできないんですけど。

○今年を振り返って

(質) 今日が今年の最後なんだろうけど、今年を振り返って、10も挙げる必要はないので、印象に残ったことを2、3挙げてほしい。

(答) 1月からということですが、やっぱり学校が4月始まりということもあって、いじめ防止条例を4月1日から施行しました。事業者の方にサポーターとして登録してもらったり、フォーラムを実施して1,100名に集まっていたりとか、11月にピンクシャツ運動をしたということがあって、いじめ防止を県民のみなさん、社会総がかりでというきっかけが、今年、出始めたのではないかとというのが一つです。それからもう一つは、インターハイが7月から8月にかけて行われて、開会式でも本当に高校生活動をみんなががんばってくれましたし、競技の活躍もありましたし、県民のみなさんも、寄付という形であったりとか、見に来てくださったりとか、これも県民の皆さん全体と進められたんじゃないかと、印象に残りました。それからもう一つは、障がい者雇用率の算定誤りということがありましたので、障がい者のみなさんにご迷惑をおかけしたこと、それから、新たに教育委員会で取り組んでいこうということで、推進チームを立ち上げて、仕事を進めていると、それぐらいが大きく言うと、自分の印象に残った1年でした。

(以上) 16時11分 終了